

整理番号

D-2-3 554

標 題 名

第一回町村巡回講話会要綱

著 者 名

発行者名

静岡県

発 行 年

大正 6 年（1917 年）

製作年月

2026 年 8 月

大正六年七月

(謄寫換)

第一回町村巡回講話會要項

農作物病虫害事件

静岡縣立農事試驗場技師

講師

静岡縣農會技手

岡田忠男

鶴田章逸

第一回町村巡回講話會要項

病害之部

●稻熱病

被害作物 水陸稻 粟 茗荷

本病ハ葉、稈、穗首等ニ發生スルモノニシテ苗代時代ヨリ葉ニ幾多ノ橢圓形ナル暗褐色ノ病斑ヲ生シ其裏面ニ暗綠褐色ノ微ヲ生ズ此病斑ハ次第ニ相融合シテ大斑点トナリ遂ニ枯死ス又穗首及稈ニ發生セバ枯死シテ白穗ヲ呈ス

防除法

- 一、種子ハ鹽水撰チ行ヒ一坪四合前後ノ割合ニ適期ニ播下ス可シ
- 一、苗代肥料ハ肥ノ不足スル度ニ施肥シ多量ニ施ス可カラズ
- 一、本田ノ肥料中綠肥、大豆粕、魚粕、人糞ノ如キ窒素素質肥料ハ過剩ニ施ス可カラズ土性ニ應ジテ適宜磷酸及加里肥料ヲ充分ニ施シ稻ヲ強剛ニ生育セシム可シ
- 一、氣候冷温ニシテ本田ニ稻熱病發生ノ慮アル所ニハ草木灰ヲ適宜撒布シ除草ノ回數ヲ増シ又蟹爪打等ヲ行ヒ地温ノ昇騰ヲ計ル可シ
- 一、山間等ニシテ冷水ノ浸入スル場合ニハナル可ク用水ヲ迂廻セシメ暖メタル後灌漑ス可シ

一、畦畔路傍ノ雜草ヲ刈除シ又除草ノ際病葉ヲ摘採燒却シテ病菌ノ蔓延ヲ防グ可シ

一、稻田ハ排水ヲナシテ成ル可ク二毛作トナス可シ

一、年々發病多クレバ被害少キ品種ヲ栽培ス可シ

一、蔓延ノ兆アレバ三斗式砂糖ボルドウ液ヲ撒布ス可シ

●稻胡麻葉枯病

被害作物 稻

本病ハ葉及穗ニ發生スル病害ニシテ褐色胡麻粒ニ似タル小病斑ヲ生シ出穗期ナルキハ穗ヲ抽出セズシテ尖端ヲ露出シタル儘枯死ス

防 除 法

一、播種一日前ニ苗代水ヲ去リ木灰一升ヲ水五合ニ混シタル木灰水ヲ如露ニテ苗代滿面ニ撒布シ播種ノトキ水ヲ引キ播種ス

一、外稻熱病豫防方法ト同シ

●稻白葉枯病

被害作物 稻

本病ハ多ク八九月頃ヨリ發生スル病害ニシテ病葉ハ初メ葉緣ヨリ波狀ニ黃色ヲ呈シ次第ニ灰白色トナリテ枯死ス

防 除 法

一、被害激甚ナル地ハ神力ノ如キ被害多キ品種ヲ避ケ被害少キ種類ヲ撰ビ栽培ス可シ
一、發病前二週間位前ヨリ三斗式砂糖ボルドウ液ヲ撒布ス可シ

●稻馬鹿苗病

被害作物 稻

本病ハ籾ノ發芽期ニ寄生シテ起ルモノニテ病葉ハ莖葉纖長トナリ色淡黃綠色ヲ呈シ移植后ハ分蘖少ナク結實ニ至リテハ僅カニ數粒ヲ止ムルニ至ルヲアリ

防 除 法

- 一、種子ハナル可ク適期ニ拔穗チナス可シ
- 一、鹽水撰チナシ坪四合内外ノ割合ニ播下ス可シ
- 一、浸種ノ日數ニ注意シ發芽セルモノヲ播種ス可カラズ
- 一、苗代ニ於テハ病苗ハ拔キトリ無病苗ノミヲ移植ス可シ

●麥類黑穗病

被害作物 麥

麥類ノ黑穗病ニハ種々アレモ普通ナルハ左ノ三種トス

- (イ) 大麥及裸麥ノ堅黑穗病

本病ハ病穗ノ子實黒粉ニ變ズルモ薄膜ヲ以テ包マル、ガ故ニ堅クシテ容易ニ飛散セズ

ロ 大麥及裸麥ノ裸黑穗病

本病ハ子實全部黒粉トナリ初メ薄キ膜ニテ包マルレドモ速ニ破レテ黒粉ハ飛散シ數日ノ後穗ハ中軸ノミトナルモノナリ

ハ 小麥 黑穗病

本病ハ小麥ノ子實ニ寄生シ病狀裸黑穗病ニ似タリ

防 除 法

一、本病ヲ發見セバ黒粉飛散セザル前速ニ拔キ取り焼却ス可シ

一、種子ハ冷水温湯浸法ヲ行フ可シ

● 麥 斑 葉 病

被害作物 大麥 裸麥

本病ハ麥一尺内外ニ成長セシ頃ヨリ穗孕期ニカケ最モ多ク發生シ始メ葉ニ黃白色ノ條斑ヲ生シ後淡褐色トナリ黒綠色ノ微ヲ生シ枯死ス

防 除 法

一、播種期ハ遅レザル様適期ニ播種ス可シ

一、春期發病ノ初期ヲ見計ヒ被害莖ハ悉ク拔取り處分ス可シ

一、發病ノ恐アル種子ハ冷水温湯浸法ヲ行フ可シ

●麥赤澁病

被害作物 麥

本病被害葉ハ初メ淡黃色ノ小斑点ヲ生シ後橢圓形ニ膨レ橙黃色トナリ遂ニ表皮破レ内部ヨリ橙黃色ノ粉末ヲ飛散ス

防 除 法

- 一、種子ハ鹽水撰チナシ厚播或ハ薄播ニ失セザル様適期ニ播下ス可シ
- 一、圃地ノ排水空氣ノ流通ニ注意ス可シ
- 一、成ル可ク本病ニ侵サレ難キ種類ヲ撰ビテ栽培ス可シ
- 一、肥料ハ窒素質ノミヲ多量ニ施サズシテ磷酸肥料及草木灰ヲ充分ニ施シ強剛ニ生育セシム可シ
- 一、冬期温暖ニシテ麥ノ徒長セシ場合ニハ一二月反當四五貫位ノ割合ニ過磷酸石灰ヲ施シ強剛ヲラシム可シ

●麥立枯病

被害作物 麥

本病ハ土壤傳染ニヨリ麥ノ根部ニ發生スルモノニシテ被害葉ハ黃色トナリ恰モ寒傷ヲ受ケシガ如ク黃褐色トナリテ枯死スルモノナリ二三月ノ頃最モ多ク發生ス

防 除 法

- 一、種子ハ適期ヲ失ハザル様播種ス可シ
- 一、病株ハ之レヲ抜キ取り焼却ス可シ
- 一、發病圃ニハ前冬作ノ麥トハ異リタル種類（大小裸麥ノ何レカ）ヲ撰ビ栽培ス可シ
- 一、病土壤ハ燒土法ヲ行フ可シ
- 一、若シ二三月ノ頃發病ヲ認メバ追肥トシテ過磷酸石灰ヲ施ス可シ

●茶 赤 葉 枯 病

被害作物 茶

病狀 本病ハ茶ノ嫩芽葉及幼梢ニ發生スルモノニシテ葉ニ發生シタルキハ葉片ノ被害部恰モ水分缺乏セシガ如ク萎凋シ漸次赤褐色トナリ波狀輪紋ヲ生ジ遂ニ灰白色ニ枯死ス

豫 防 法

- 一、發病地ハ三月上旬一回並ニ摘葉深刈後直チニ三一四斗式石灰ボルドウ液ヲ撒布ス可シ
- 一、被害葉ノ落下セルモノハ蒐集燒却ス可シ

●茶 網 燒 病

被害作物 茶

病狀 本病ニ侵サレシモノハ葉ノ表面暗色ヲ呈シ同時ニ裏面ハ網脈狀ニ腫起シ後白色トナ

リ遂ニ枯死落葉ス

豫 防 法

一、茶赤葉枯病ト同シナルモ更ニ十月上中旬頃三斗式石灰ボルドウ液ノ撒布ス可シ

●茶白星病

被害作物 茶

病狀 本病ハ新芽及葉ニ發生スルモノニシテ最初褐色圓形小點ヲ生ビ漸次病勢進ムニツレ

病斑部中央灰白色トナリ遂ニ萎縮落葉ス

豫 防 法

茶赤葉枯病ニ同シ

●茶白紋羽病

被害作物 茶、桑、馬鈴薯、蠶豆、葡萄、甜菜

病狀 本病ハ土壤傳染ニヨリ根ニ寄生スル病害ニシテ被害根ハ白色綿毛狀ノ菌絲ヲ絡纏シ

漸次根部ヲ腐朽セシムタメニ被害樹ハ勢力衰ヘ葉ハ黃色ヲ帶ビ凋落枯死ニ至ル

豫 防 法

一、土壤ノ排水ニ注意ス可シ

一、本病ハ根ヨリ根ニト傳染スルモノナレバ被害樹ハ之ニ隣接スル茶樹トノ間ニ深キ溝ヲ

掘リ兩者ノ根ノ接觸ヲ遮斷ス可シ

一、被害ノ初期ナルモノハ根際ヲ掘リ根ヲ暴露シ石灰及ビ硫黃華ヲ撒布シ土ヲ覆ヒオク可シ

一、被害見込ナキモノハ引拔キ燒却シ跡地ニハ生石灰乳(生石灰一貫一斗 五百匁ニ水一斗)及ボルドウ液等ニテ充分消毒ス可シ

●桑紫紋羽病

被害作物 桑、三桠、苹果、甘藷、漆、柿、蘿蔔、大豆、茶、胡蘿蔔

病狀 本病ハ根ヲ犯ス病害ニテ被害根ハ紫褐色ノ絲狀体ニテ被ハレ腐朽ニ至ルモノナリ被害樹ハ勞力衰ヘ芽ノ伸長遲緩ニシテ葉ハ黃色ヲ帶ビ遂ニ枯死ニ至ル一株發病セバ土壤傳染ニヨリ漸次周圍ニ傳染ス

豫 防 法

一、本病ハ苗木ニヨリ傳播スルヲアレバ苗木ハ之レヲ檢シテ無病ノモノヲ栽植ス可ク若シ病ノ疑問アレバ石灰乳ニ三十分間浸漬シ後移植ス可シ

一、外茶白紋羽病ニ同シ

●柑橘瘡痂病

被害作物 柑橘類

病狀

本病ハ果面及ビ莖葉ヲ侵害スル病害ニシテ所謂淡灰褐色瘡痂狀ノ病斑ヲ生ジ又ネーブル及夏密柑ニアリテハ不正圓形ノ痂点ヲ生ズコノ被害ヲ蒙リタルモノハ生長惡シク果實ノ外觀ヲ損シ品質ヲ害スルヲ甚ダシ

豫 防 法

一、發芽並ニ開花期前及果實ノ豆大ニ及ビシ頃三斗式乃至四斗式石灰ボルドウ液ヲ撒布ス可シ

一、苗木ハ此病害ノ憂ナキモノヲ撰擇シテ栽植ス可シ

●重要殺菌劑

一、石灰ボルドウ液

調合分量	
硫酸銅	百二十匁
生石灰	百匁―百二十匁
水	二斗五升―四斗

硫酸銅及生石灰ヲ溶解スルニ用ヒタル水ノ全量ヲ呼ビテ二斗五升式或ハ四斗式ト稱ス製 法

今三斗式ボルドウ液ヲ製スルニハ

先ツ大桶一個ト小桶二個トヲ用意シ一ツノ小桶ニ硫酸銅百二十匁ヲ入レ熱湯二三升位ニ溶解シ更ニ冷水ヲ加ヘテ全量一斗五升ニ稀釋シ又別ノ小桶ニ生石灰ヲ入レ少量ノ水ヲ徐々ニ

滴下シテ之レヲ消化セシメ（熱湯ヲ滴下シ消化セシムルヲモアリ）後攪拌シツ、水ヲ加ヘ全量一斗五升トナス

而シテ兩者ヲ同時ニ大桶ニ注入シ能ク攪拌スレバ少シク粘氣アル青空色ノ液トナル之レヲ石灰ボルドウ液ト稱ス

製造上ノ注意

- 一、硫酸銅ハ決シテ金物製器ニテ溶解セシム可カラズ必ズ桶又ハ陶器ヲ用フベシ
- 一、兩液混合後ハ水ヲ加フ可カラズ
- 一、生石灰ハ風化セザル上等品ヲ用ユ可シ
- 一、製造後ハ液ノ良否ヲ鑑定ス可シ即チ良否ヲ鑑定スルニハ青色ノ試験紙ヲ浸シ赤變スルカ或ハ磨キタル小刀ヲ液中ニ五六分間入レ銅鍍金ヲ生スルカ如キ反應ヲ呈スレバコノ變化ナキ迄更ニ生石灰乳ヲ混和ス可シ
- 一、硫酸銅ヲ湯ニ溶解シタル際ハ水ヲ加ヘ全ク冷却シタル後混和スルヲ要ス

適用病害

- 一、空氣傳染ニヨリテ起ル植物ノ病害（柑橘瘡痂病茶白星病等）
- 一、球根類ノ貯藏中腐敗ヲ防グタメ貯藏ノ際之ガ消毒ニ用フ
- 一、樹幹ニ附着セル地衣類ヲ驅除スルニ効アリ又樹木ノ腐朽シタル部分ニ塗布シテ効果アリ

施用上ノ注意

一、本劑ヲ施用スルニハ噴霧器ヲ使用シ丁寧ニ満面ニ撒布ス可シ
一、撒布ハ製造後五六時間以内ニ使用シ必ズ使用殘液及ビ貯藏セルカ如キモノハ施用ス可カラズ

一、本劑ハ治療劑ニアラズシテ豫防劑ナルガ故施用者ハ注意ス可シ

一、一回ノ撒布効力ハ十日―二週間持續スレド撒布後降雨ノタメ藥液ノ洗ヒ流サル、コトアラバ豫定期日ヲ短縮ス可シ

一、梨果ノ大豆大後及ビ桃葉開展後ニ撒布セバ被害アリ

●石灰硫黃合劑

調合量

生石灰	百二十匁乃至百六十匁
硫黃華	百二十匁
水(湯)	一斗

調製法

先ツ石油罐ノ上部ヲ切リタルモノ豫メ二個ヲ用意シ一個ヲ湯釜トシ他ノ一個ヲ煮釜トナシ湯釜ニテ湯ヲ煮沸セシメ其間ニ生石灰ヲ煮釜ニテ消化セシメ石灰乳トナシ湯釜ノ熱湯三升ニ溶解セシメ次ニ硫黃華ヲ混シ(硫黃華ハ豫メ少許ノ湯ヲ以テ濕ホシ溶解セシメシモノ)攪拌シツ、煮沸セハ硫黃ノ化合スルニ從ヒ次第ニ黃褐色ヲ呈シ遂ニ赭色トナル(之迄約四

五十分ヲ要ス）此際漸次湯釜ヨリ湯ヲ移シテ全量一斗ニ至ラシメ後約十分乃至二十分間煮沸シ茲ニ火ヲ去リ粗布ニテ濾過シ冷却セサル内ニ撒布又ハ塗布スヘシ

調製上ノ注意

- 一、硫黃華ヲ溶解セシムルトキ一時ニ多量ノ湯ヲ混入セハ硫黃華ハ水面ニ浮ビ飛散スル虞アルヲ以テ少許ツ、湯ヲ點下シ充分濕シ後溶解セシムヘシ
- 一、生石灰ハナルヘク新鮮ナルヲ使用スヘク又之レヲ消化セシムルニハ水又ハ湯ヲ少量ツ、注下シ決シテ一時ニ多量ヲ加入スヘカラス
- 一、煮沸セシムルニハナルヘク火力ヲ強盛ナラシムヘシ

施用上ノ注意

- 一、冬期落葉樹ニ使用スルモノニシテ發芽後又ハ常綠樹ニハ原液ハ使用セス
- 一、本劑ハ溫キモノヲ使用シ冷却セシ場合ニハ再ヒコレヲ溫メ使用スヘシ
- 一、施用ノ際ハ成ルヘク手ニ附着セシメサル様注意スヘシ
- 一、本劑ハ灌注當時直チニ殺蟲ノ效力アルノミナラス永ク枝幹ニ附着シテ其後ノ病害蟲ニハ效アレハナルヘク發芽ノ際灌注スヘシ
- 一、發芽後病害豫防トシテ使用ノ場合ハ十倍乃至十五倍液ヲ施用スベシ
- 適用スベキ病害蟲及稀釋量
- 一、各種介殼蟲ニ效アレトモ殊ニサンホゼー介殼蟲ニ有效ナリ又病害トシテハ膏藥病ニ特

效アリ何レモ冬期原液ノマ、使用ス

一、發芽後病害豫防トシテハ桃炭疽病等ニ十倍乃至十五倍ニ稀釋シ使用ス

害蟲之部

●稻

稻ノ害蟲ハ其種類多ク百數十種アリマシ是レガ皆稻ヲ害スルノデアリマス米ヲ多ク取ルニハ此害蟲ニ注意スルコトガ肝要デアル

●苗代ノ害蟲 ふりみゝず

苗代ニ播イタ籽カ不揃ニナルノハ此蟲ノ爲メデアリマス此蟲ハ赤イ細イみゝずデ暖カニナルト体ノ一方ヲ水中ニ出シテ動カシテ居ルカラ籽ハ段々ト下ニ沈ミテ芽が出ナイ様ニナリマス此蟲ニ對シテ次キノ方法ニテ防グガヨイ

處分法 前年ニ被害アリタル所ハ他ノ適當ノ場所ニ變更スルコト多少被害アルモ場所ノ變更シ兼ヌル個所ナレバ豫防的ニス野生セルあせばノ木ノ枝葉ヲ其儘用ユルカ又ハ能ク煎出シテ整地ノ際水ヲ干シ置キテ撒布スルコト

被害アリタル後ニハ如何トモスルコト能ハザルヲ以テ豫メ防ギ置クヲ肝要ナリ
諺ニ豫防の一々は驅除の一貫匁に勝ルトノコトヲ忘ルナカレ

●稻ノ二化螟虫

稻螟蟲ハ害蟲中ノ王トモ云フベキモノデアルカラ此蟲ノコトヲ忽セニシテハナリマセヌ此
螟蟲ノ初メハ主モニ稻村ガ基デ蛾トナリテ苗代ニ來リ又ハ本田ニモ來ルノテアル苗ノ葉先
ニ卵ヲ產付ケルガ仲々巧ミデアル其卵ノ一塊ノ價值ハ秋ノ末ニナリテ米ガ三升七合九勺ニ
當リマス故ニ螟蟲ノ豫防驅除ハ稻ヲ作ル人ノ行フ仕事ノ一ツデアル
處分法 一年中デ申シマスレバ

先ツ第一ニ稻村ヲ片付ケ又ハ蛾ノ出デザル様ノ處置ヲナスコト

苗代ニ來ル螟蛾ヤ卵塊ヲ丁寧ニ採ルコト

八月ノ末カラ九月ノ初メニカケ葉鞘ノ色ノ黃色ニ變リタルモノヲ披シテ茹出シ處
分スルコト

◎麥

萎縮病

此病ハ大小裸麥ニ發生スル一種ノ病デアリマシテ土中ニ一種ノ病原トナルモノガアルガ如
シ然レモ年々必ズ發病スルトモ限ラナイ麥作トシテハ仲々恐ルベキモノデアル此病ハ本縣
農事試驗場ニテ數年試驗ナシマシタガ左ノ事項ガ豫防上効果ガアリマス

處分法 年々發病地ハ播種二週間前位ニ地上ニ一坪當リ十五匁位ノ硫黃華ヲ撒布シテ土ニ

能ク打込ミ置クコト

フォルマリン溶液ハ效果ガアレモ費用ガ嵩マルカラ前者ノ方が宜イ成ルベク犯サ

レガタキ種類ヲ撰ミテ作ル

土地ノ排水ヲ計ル

被害株ハ成ルベク直チニ抜き取りテ焼却スル

●琉球蘭

縞横這 方言どや

琉球ニツクどや即チ縞横這ハ浮塵子ノ一種デアリマス此蟲ハ本郡鹿玉村ノ高井直吉氏が調査ノ結果ぼたぐろノ穴ノ中ニテ冬幼蟲ガ越シテ居リマス四月頃カラ出テ親即チ成蟲トナリ五月ノ末ニハ卵チ草ノ葉ニ産付ケテ白キ綿ノ如キモノチ覆フテ置キマス年四回即チ六、七、八、十月ノ發生ニシテ幼蟲ノマヽ越冬シマス

處分法

●柑 橘

介殼虫類

密柑ニツク介殼虫ハ其種類多ク三十余种アリマス孰レモ養液ヲ吸收シテ生活シテ居リマスカラ皆害虫デアリマス而シテ体ハ小サク多クハ動カナイカラ人ノ目ヲ留メマセヌケレ品質ヲ害シ樹ヲ衰弱セシメ遂ニ枯死セシムルヲガアリマス

處分法 苗木購入ノ際注意シテ介殼虫ノツイテ居ラザルモノヲ植付クル

冗枝懷枝ヲ取除キテ後殺虫劑ヲ注射スルコト

其レニハ石油乳劑ノ稀薄ナルモノ又ハ松脂合劑ガヨイ

最モヨイノハ青酸瓦斯燻蒸デアリマス

●壁 虱 類

密柑ニツク壁虱ハ主モニ赤壁虱ト銹壁虱デアリマス是レ等モ亦養液ヲ吸收シテ害ヲ與ヘマス前者ハ葉ガ黃白色トナリテ甚シキハ落葉シマス後者ハ主モニ果實ガ銹色トナリマス以前ハ是レヲ象皮病ト申シ居リマシタ此壁虱ハ冬卵ヤ成蟲ヤ幼蟲ヤ越シマシテ成虫ハ暖カナル時ガ來レバ活動シマス一年中ニ十數代ヲ經テ次年ニ殘ルノデアル

處分法 冬ヨリ春ニ亘リ石灰硫黃合劑百倍位又ハ曹達硫黃合劑ノ四五十倍位ノモノヲ撒布スルコト

夏期ニ於テハ石灰硫黃合劑ノ百倍力百二三十倍ノモノヲ用ユルガ安全デアリマス

●茶

壁 虱 類

茶ニモ亦赤壁虱ト銹壁虱トガツキマス兩者トモ甚シク被害サルレバ落葉シマスカラ注意シテ少ナイ時ニ驅除スルモノデアリマス

處分法 二三月ノ交石灰硫黃合劑ノ八十倍乃至百倍位ノモノヲ撒布スルコト

小綠横這（一名ちやのうんか）

茶ノウンカハ小サイ綠色ノうんかデ冬ハ成虫ノマ、越冬シマス一番茶ヲ摘ミ殘シノ個所ニ産卵シ置クヲ以テ孵化シタル幼虫ハ二番茶ノ發芽ノ際養液ヲ吸收シ遂ニ萎縮セシムル害ヲ與フ

處分法 一番茶蒔込ミチナシ二番茶ノ發芽ヲ見計ヒ除虫菊加用石油乳劑ノ二十倍液又ハ除虫菊加用石鹼液ヲ丁寧ニ撒布スルヲ

●桑

姬象鼻虫

此害虫ハ桑樹ノ一大害虫デ小ニシテ一分内外こくどう虫ニ酷似シ色光澤アル黑色ナリ殊ニ桑ノ株直シ後發芽ノ際ニ害ヲ加フ甚シキハ少シモ發芽セザルニ至ル處分法 株直シノ後此虫ノ居リタル桑園ハ直チニ耕土ヲ薄ク覆フ

桑ノ螟蛾（一名くわのすきむし）

此虫ハ八九月ノ頃ニ至リテ桑葉ヲ著シク喰害シ爲メニ網狀トナシ夏秋蠶飼育ニ適セザルニ至ル近來益多キヲ加ヘ盤田、濱名郡等ノ養蠶家ハ大ニ困難セリ年四回ノ發生ヲナシ幼虫態ニテ越冬ス

處分法 六七月ノ交第一化發生ノ際蒔殘ノ葉及植込ノ株ニ蝕害シ居ル幼虫ヲ捕殺スルヲ

桑介殼虫

桑介殼虫ハ幹部ニ固着シ居リテ樹液ヲ吸收スルヲ以テ樹ハ爲メニ衰弱ヲ來タス殊ニ多數ノ寄生スルヲ以テ一層其害甚シ年三回ノ發生ヲナス

處分法 冬期松脂合劑其他ノ殺虫劑ヲ丁寧ニ塗抹スルヲ又株直シ後直チニ石灰硫黃合劑ノ稀薄ナルモノヲ塗抹スルモ可ナリ

以上

D
2-3
554